

令和2年度 川越市立高階北小学校 学校だより 049(244)0988
学校教育目標「たかまる学び かんじる心 きたえる体」

かがやき



11月の生活目標：「友だちとなかよくしよう」

【心の成長】

11月を迎え、秋の気配が一層色濃くなってまいりました。先日は、保護者の皆様に多大なるご協力をいただき、運動会を開催することができました。今年度は、例年とは違った形での運動会となりましたが、一生懸命に取り組む子供たちの姿はとても輝いて見えました。そして、子供たちの成長を感じ取れる運動会となりました。

さて、先日のお話朝会で子供たちに、「心の成長」について以下のような話をしました。

一年前と比べて皆さんの身長はどうですか。人それぞれ差はあると思いますが、大きくなったと思います。みなさんの年頃なら、しっかり食べて、よく寝て、適度な運動をすれば自然と体は大きくなります。つまり、目に見えて成長するわけです。

では、みなさんの心はどうですか。心は目に見えません。心の成長は、その人の行動を見ればわかります。何かを行動するとき、しようという心がなければ行動しません。例えば、電車に乗っているとき、お年寄りが乗ってきました。「大変そうだな、席を譲ってあげよう。」という思いやりの心があれば、席を譲ってあげます。心が目に見えた形になります。そうすると、そのお年寄りから喜ばれ、自分もうれしい気持ちになり、またどこかで席を譲ってあげるようになります。行動を繰り返すことによって、心はどんどん大きく成長していきます。

心は何もしなければ成長しません。我慢をしたり、自分から進んでよい行動をすることによって心は成長します。

『心が行動を生み、行動が心を育てる』ということをお忘れずに、心を大きく成長させてほしいと思います。

心については、次のようなエピソードがあります。人として忘れてはならない大切なことを教えてくれています。

昔、中国の唐の時代に白居易という人がいました。通称、白樂天と呼ばれ、唐の三大詩人（杜甫・李白・白樂天）の一人です。白居易は、772年、河南省の新鄭に地方官吏の次男として生まれました。彼は29歳で難関とされていた官僚登用試験（科挙）に合格し、進士となります。高級官僚というエリート人生を歩んでいましたが、50歳のころに失脚し、首都の権力闘争を避け、地方の杭州へ刺史（州の長官）となって赴任します。

杭州の秦望山には、鳥窠道林（ちょうかどうりん）と呼ばれる高僧が住んでいました。この高僧は、「鳥の巣禅師」と呼ばれ、松の木の上に巣をつくって住み、木の上で座禅をしていました。以前から、仏教に関心があった白居易は、この高僧に面会に出かけて行きます。

白居易がその高僧に、「仏教とはどんなことが説かれているのか。」と仏教の大意を問うたところ、その高僧は「一切悪いことをしないで、善いことをして自分の心を浄めなさい。これが諸仏の教えです。」と説きます。それを聞いた白居易は、「そんなことは、3歳の子供でも知っていますよ。」と返します。それに対して、「3歳の子供でも知っているが、80歳の老人でも実行することは難しいぞ！」と一喝されます。白居易は、自らの至らなさを悟り、深々とその高僧に礼拝し、その場を去って行きました。

【校長：神田郁夫】

